

「アジア環太平洋初期キリスト教学学会」(APECSS)と

その研究集会の位置づけについて

——第十回大会を振り返って——

戸根裕士

序章

第十回目の「アジア環太平洋初期キリスト教学学会」(Asia-Pacific Early Christian Studies Society、以下APECSSと略する)による研究集会は、二〇一六年九月九日から一日までの間、ロシア連邦のサンクトペテルブルクで開催された。第十回目のテーマは「初期キリスト教の伝統の存続」(Survival of Early Christian Traditions)と定められ、サンクトペテルブルク国立航空宇宙工科大学 (Saint Petersburg State University of Aerospace Instrumentation) にて活発な議論が行われた。そして今大会を以ってAPECSSによる研究集会

は節目の第十回を迎えることになる。そこでAPECSSとその研究集会の意義を共有し、更なる学会活動の発展に貢献する為、APECSSやその研究集会の国際的な位置づけについて検討する。先ずAPECSSの学会のホームページを参照して、APECSS設立の経緯を振り返り、過去の研究集会の期間や場所、更にテーマをまとめる。続いて他の国際的な教父並びに初期キリスト教研究の学会や、その研究集会の特徴を、各々のホームページを参照しつつ整理する。その後他のこれらの学会と比べて、APECSSやその研究集会の特徴を指摘する。

1. 「アジア環太平洋初期キリスト教学学会」(APECSS) の経緯

1. 1. 「アジア環太平洋初期キリスト教学学会」

(APECSS) の設立経緯

APECSS の前身は「環太平洋西岸教父学会」(Western Pacific Rim Patristic Society)であった。そしてこの「環太平洋西岸教父学会」の構想が話し合われたのは二〇〇三年八月二三日、オックスフォード大学 (University of Oxford) での第十四回目の「国際教父学研究集会」(International Conference on Patristic Studies) が開催されている間であった。⁽²⁾ この「環太平洋西岸教父学会」の構想は「北アメリカ教父学会」(The North American Patristics Society) や「カナダ教父学会」(The Canadian Society for Patristic Studies) に倣っていた。そして設立する目的は、主に環太平洋諸国の研究者の研究や教育の促進であった。⁽³⁾ こうした学会の構想が練られた背景には、それ以前の数年間に渡る日本国とオーストラリア連邦の研究者の交流が基になっていた。⁽⁴⁾ こうして二〇〇四年の九月に、「環太平洋西岸教父学会」による初めての研究集会を日本国の東京で開催することに

なった。⁽⁵⁾

1. 2. 「アジア環太平洋初期キリスト教学学会」

(APECSS) による研究集会

続いて過去の APECSS による研究集会の期間や場所、そしてテーマについて、APECSS のホームページに従い整理する。本来「環太平洋西岸教父学会」という名前が APECSS へと変更になるのは二〇〇九年であるが、APECSS のホームページでは「環太平洋西岸教父学会」による研究集会も APECSS の過去の研究集会に数えられているので、本報告でもその判断に従う。

第一回は二〇〇四年九月二五日から二六日の間に開催された。場所は聖心女子大学(東京都渋谷区)である。テーマは「教父の積義と解釈学」(Patristic Exegesis and Hermeneutics)であった。

第二回は二〇〇五年七月六日から八日の期間に開かれた。場所はオーストラリアアカトリック大学 (Australian Catholic University, メルボルン市) のセイント・パトリックキャンパス (St. Patrick Campus) であった。但し今大会では研究発表が行われず、打ち合わせのみであった。しかし実際はこ

の第二回大会に参加した研究者は代わりに、東方世界のキリスト教に焦点を当てる「初期キリスト教における祈りと霊性」(Prayer and Spirituality in the Early Christianity, 以下PSと略する)とこう学会の、「霊的生活」(The Spiritual Life)をテーマとする第四回大会(=PS4)に参加して研究発表を行った。とこのもAPECSSの前身の「環太平洋西岸教父学会」の設立に関係していたオーストラリア連邦の研究者たちは、以前からPSに参加していたので、三年に一度開催されるその研究集会に「環太平洋西岸教父学会」も協力することになっていたからである。そこで今度は逆に、三年後の「環太平洋西岸教父学会」によるAPECSSの第四回大会は、PSの協力の下で開催している。更にこうしたPSとの連携という背景が存在していたので、第一回大会以来APECSSでは、東方世界の初期キリスト教研究に関する発表が盛んになされた。

第三回は二〇〇六年九月二六日から一〇月一日の期間に開催された。場所は南山大学(名古屋市)であった。テーマは「初期キリスト教における福音書の用い方」(The Use of the Gospels in Early Christianity)であった。翌二〇〇七年八月の国際教父研究集会の折、オックスフォードのパブ

(King's Arms)にメンバーが集って交歓のひとつきを持ち、以来四年に一度のオックスフォードでの一夕はAPECSSの恒例行事となった。

第四回(=PS5)は二〇〇八年一月九日から一二日の間に開かれた。場所はオーストラリアアカトリック大学(メルボルン市)のセイント・パトリックキャンパス(St. Patrick Campus)である。テーマは「貧困と富」(Poverty and Riches)であった。

第五回は二〇〇九年九月一〇日から一二日の間に東北学院大学(仙台市)で開催された。テーマは「初期キリスト教における手紙」(Letters in Early Christianity)であった。そしてこの第五回を機に「環太平洋西岸教父学会」という名称がAPECSSに変更された。当初は日本国とオーストラリア連邦の研究者が中心であったが、大韓民国などのアジア諸国の研究者たちが次第に参加するようになったので、第五回大会を期に学会の名称が「環太平洋西岸」だけに限定されず、「アジア」という地域名も加えられた。⁶⁾

第六回(=PS6)は二〇一〇年七月七日から九日の期間にオーストラリアアカトリック大学(メルボルン市)のセイント・パトリックキャンパス(St. Patrick Campus)で開かれた。

テーマは「政治と宗教」(Politics and Religion)であった。

第七回は二〇一二年七月五日から七日の期間に大韓民国の長老派大学神学校(ソウル市)で開催された。テーマは「初期キリスト教における説教と宣教」(Preaching and Ministry in Early Christianity)であった。

第八回は二〇一三年一〇月三日から五日にかけてオーストラリアアカトリック大学(メルボルン市)のセイント・パトリックキャンパス(St. Patrick Campus)で開催された。テーマは「初期キリスト教における男と女」(Men and Women in Early Christianity)であった。この時から、PSは「初期キリスト教の諸世紀」(Early Christian Centuries)研究集会と改称し、より広範なテーマを扱うようになった。

第九回は二〇一四年九月四日から六日にかけて東洋英和女学院大学(横浜市)で開催された。テーマは「初期キリスト教における生と死」(Life and Death in Early Christianity)であった。

第十回は二〇一六年九月四日から六日の間にロシア連邦のサンクトペテルブルク国立航空宇宙工科大学にて開かれた。テーマは「初期キリスト教の伝統の存続」(Survival of Early Christian Traditions)であった。

以上で過去のAPECSSによる研究集会を概観した。それに加えて、各回のテーマと参加者や会場の関心の間に密接な関係が存在していた点について指摘する。

例えば第一回大会のテーマである「教父の釈義と解釈学」は、参加者の一人であるチャールズ・カネンギーサー(C. Kannengieser)による『教父による釈義のハンドブック・古代キリスト教における聖書』(*Handbook of Patristic Exegesis: The Bible in Ancient Christianity*)⁷⁾の出版に合わせて設定された。また第四回大会の「貧困と富」というテーマも、参加者のポーリーン・アレン(P. Allen)などによる『古代における貧困の説教…その現実と洞察』(*Preaching Poverty in Late Antiquity: Perceptions and Realities*)⁸⁾が念頭に置かれていた。同じく第五回大会の「初期キリスト教における手紙」というテーマも、前述のアレンがエルサレムのソフロニオス(Σωφρόνιος, 560-638)の手紙などを編集した⁹⁾ことに合わせて設定された。さらに第七回大会のテーマが「初期キリスト教における説教と宣教」になった理由は、会場の長老派大学神学校が関心を示していたからであった。第九回の「初期キリスト教における生と死」というテーマも、会場の東洋英和女学院に死生学研究所があったことが理

由であった。

2. 国際的な教父並びに初期キリスト教研究の学会と研究集会の紹介

2. 1. 「国際教父学研究会」(International Conference on Patristic Studies)

「国際教父学研究会」は四年に一度、オックスフォード大学で開催される国際的な研究会である。この研究会の設立は一九五一年にまで遡る。当時オックスフォード大学神学部の「レディ・マーガレット教授」(Lady Margaret Professor)でもあったフランク・クロス(F. L. Cross, 1900-1968)は、第二次世界大戦の影響で途絶えたドイツ人研究者との連携を再度取り持つ試みを模索し、その一環として「国際教父学研究会」を設立したのであった。⁽¹⁾そして現在では全世界中から教父学研究者が訪れるようになり、最大規模の国際的な学会の一つとなっている。その学会で発表された一部の論稿は『教父研究』(Studia Patristica⁽²⁾)にて確認することが出来る。

2. 2. 「北アメリカ教父学会」(The North American Patristics Society) とその研究会

「北アメリカ教父学会」(NAPS)は一年に一度の頻度で研究会を催しており、その際に研究発表だけでなく講演やワークショップも企画している。「北アメリカ教父学会」の設立は一九七〇年であり、設立の目的は古代キリスト教研究における学際性と方法的な多様性を確保すること、又はそうした方針に沿って研究を促進することであった。⁽³⁾参加者は英米諸国の研究者が中心ではあるが、欧州諸国や北欧諸国、さらにアジア諸国などからも研究者が積極的に参加している。この研究会で発表された論考の一部は『初期キリスト教研究ジャーナル』(Journal of Early Christian Studies⁽⁴⁾)にて確認することが出来る。

2. 3. 「教父・中世・ルネッサンス研究会」(Patristic, Medieval and Renaissance Conference)

「教父・中世・ルネッサンス研究会」は、アメリカ合衆国のピラノバ大学(Villanova University)が一年に一度主催する研究会である。この研究会の設立年度は一九六一年である。⁽⁵⁾そして研究会で発表されるテーマは、

初期キリスト教や教父に限らず中世後期の思想まで含んでおり、その幅広い分野での比較や対比がこの研究集会の特徴であった。¹⁶⁾ またこの特徴を活かして、二〇一一年のアメリカ同時多発テロ事件以降は、ユダヤ教、イスラム教を含む一神教内の連携などを模索している。¹⁷⁾ 参加者は英米圏の研究者が多い。この研究集会での発表の一部は『教父・中世・ルネッサンス研究集会の議事録』(Proceedings of the PMR Conference)¹⁸⁾の中で確認出来る。

2. 4. 「カナダ教父学学会」(The Canadian Society of Patristic Studies) とその研究集会

「カナダ教父学学会」は、カナダ内の教父研究の推進を目的に一九七五年に設立された。¹⁹⁾ そして「カナダ教父学学会」による研究集会は、カナダ政府の支援による「人文学・社会科学会議」(The Congress of the Humanities and Social Sciences)の一部として年に一度、カナダ国内で開催されている。²⁰⁾ この研究集会で発表された一部は、『宗教研究』(Studies in Religion/Sciences Religieuses)²¹⁾に記載されている。

2. 5. 「聖書文献学会」(Society of Biblical Literature)

とその研究集会

「聖書文献学会」(SBL)は、八十カ国以上の研究者が参加する聖書研究に関して最大規模の学会の一つである。²²⁾ 「聖書文献学会」はアメリカ合衆国のニューヨークにて一八八〇年に設立され、その目的は文献批評と解釈学に基づく聖書研究の促進であった。²³⁾ そしてアメリカ合衆国の支援の下に様々なプロジェクトが試みられている。また「聖書文献学会」による研究集会は一年に一度開催されている。発表内容は初めの内、聖書研究に関する論考が中心であったが、次第に聖書と初期キリスト教の関係が論題に挙げられ始め、現在では初期キリスト教全般の研究発表が学会の一部に設けられている。その研究集会で発表された内容の一部は、『聖書文献ジャーナル』(The Journal of Biblical Literature)²⁴⁾の中で確認出来る。

3. 「アジア環太平洋初期キリスト教学会」(APECSS) とその研究集会の特徴

以下で前述の国際的な学会や研究集会と比較して、APECSS やその研究集会の特徴をまとめる。

先ず APECSS の特徴は、他の国際的な学会のように特定の大学が支援したり、学会の年会費を集めて組織的に運営したりするような母体がない点である。これまでオーストラリアカトリック大学初期キリスト教研究センターのジェフリー・ダン (G. Dunn) が連絡の中心となつて、開催校のメンバーと連絡を取りつつ各研究会のプログラムや参加費を設定して運営してきた。いわば手作りの学会なので、学会毎の連絡には参加者が自らメーリングリストを活用して行うなど、APECSS が機能するには、環太平洋やアジア諸国の研究者の、自発的な態度と信頼関係が一層必要であつた。

そして APECSS による研究会の特徴も、この APECSS の組織の在り方に関係している。即ちその研究会の特徴には、環太平洋やアジア諸国の参加者や会場の地の関心という地域的な個性がテーマに反映され易かつた点が挙げられる。そしてこれまでオーストラリア連邦と日本国での開催が中心であり、二〇一七年九月にメルボルン市にて第十一回目の研究会の開催と、また二〇一八年九月に岡山市にて第十二回目の研究会の開催が予定されているが、今後はシンガポール共和国、台湾、インドネシア共和

国等のアジア各地へと開催地を広げつつ、参加者のより多様な関心を喚起する方向にある。

更に APECSS による研究会では、日本人研究者が組織の運営や研究会の中心を担っているので、その研究成果を国際的な枠組みで発表し易く、特に若手の研究者にとつて更なる研究の進展に貢献出来る場所であることも重要な特徴であると指摘しておきたい。

結論

現代にて初期キリスト教や教父の研究を促進する為に、世界中で学会や研究会が組織されている。そして、そうした学会の支援の下に、国籍の別無く研究者が定期的に交流し、意見を交換して協力し合い、多角的な角度から研究を蓄積している。その中で二〇〇三年から構想が始まった APECSS は、オーストラリア連邦や日本国を中心に研究会を開催し続け、環太平洋やアジア諸国の問題意識を汲み取り、独自の角度から国際的な研究の進展に貢献してきた。今後 APECSS は、これまで開催地でなかつたアジア諸国の研究者達にも協力を求め、更なる規模の拡大を図って

いる。その中で APECCS の中心を担ってきた日本人の研究者には期待が寄せられる。

(同志社大学大学院)

註

- (1) 本報告は第一五七回教父研究会にて発表した内容を整理して作成した。作成するにあたって出村和彦先生、上村直樹先生には様々なご指摘を頂きましたので、この場を借りて感謝を申し上げます。
- (2) 「初期キリスト教学センター」(Centre for Early Christian Studies) <http://www.cecs.acu.edu.au/asiapacific_eccs.html> (2017/8/31 アクセス)
- (3) 同ホームページ。
- (4) 同ホームページ。
- (5) 同ホームページ。
- (6) 同ホームページ。
- (7) C. Kannengesser, *Handbook of Patristic Exegesis: The Bible in Ancient Christianity*, Leiden: Brill, 2004.
- (8) P. Allen; N. Bronwen; W. Mayer, *Preaching Poverty in Late Antiquity: Perceptions and Realities*, Leipzig: English Verlagsgesellschaft, 2009.
- (9) P. Allen, *Synchronism of Jerusalem and Seventh-Century Heresy: The Synodical Letter and Other Documents*, Oxford: University Press, 2009.
- (10) 「教父研究集会」(Patristic Conference) <<http://www.oxfordpatristics.com/conference>> (2017/8/31 アクセス)
- (11) 'Frank Leslie Cross' in: *the Oxford Dictionary of Christian Church*, Oxford: Oxford University Press, 1997, p. xxxvi.
- (12) *Studia Patristica*, Leuven: Peters, 1957.
- (13) 「北アメリカ教父学会」(The North American Patristics Society) <<http://patristics.org/about>> (2017/8/31 アクセス)
- (14) *Journal of Early Christian Studies: Journal of the North American Patristic Society*, Baltimore, MD: Johns Hopkins University Press, 1993.
- (15) 「教父・中世・ルネッサンス研究集会」(Patristic, Medieval, and Renaissance Conference) <<https://www1.villanova.edu/villanova/mission/angustinianinstitute/conferences/pmr/about.html>> (2017/8/31 アクセス)
- (16) 同ホームページ。
- (17) 同ホームページ。
- (18) *Proceedings of the PMR Conference*, Villanova, Pa: Augustinian

Historical Institute, Villanova University, 1976-1997.

- (19) 「カナダ教父研究学会」(The Canadian Society of Patristic Studies) <<http://www.ccsr.ca/csp/>> (2017/8/31 トクセス)
- (20) 同ホームページ。
- (21) *Studies in Religion: a Canadian Journal / Sciences Religieuses: Revue Canadienne*, Toronto: University of Toronto Press, 1971-.
- (22) 「聖書文献学会」(Society of Biblical Literature) <<https://www.sbl-site.org/aboutus.aspx>> (2017/8/31 トクセス)
- (23) 同ホームページ。
- (24) *Journal of Bible Literature / Society of Bible Literature and Exegesis*, New Haven: Society of Biblical Literature and Exegesis, 1890-.